

平成22年 第11回大都市交通センサス調査結果の概要

大都市交通センサスは、首都圏、中京圏、近畿圏の三大都市圏における鉄道、バス等の公共交通機関の利用実態を把握し、公共交通施策の検討に資する基礎資料の提供を目的として、昭和35年以来5年毎に実施。

1. 三大都市圏における鉄道輸送の変化

(1) **総輸送人員** 首都圏と中京圏で増加、近畿圏では減少。

【首都圏】39.5百万人(H17)⇒40.7百万人(H22)[+3%] 【中京圏】3.0百万人(H17)⇒3.1百万人(H22)[+3%] 【近畿圏】12.9百万人(H17)⇒12.6百万人(H22)[△2%]

(2) **鉄道定期券利用者数** 首都圏、近畿圏は減少。

【首都圏】8.1百万人(H17)⇒7.9百万人(H22)[△2%] 【中京圏】0.7百万人(H17)⇒0.7百万人(H22)[+6%] 【近畿圏】2.6百万人(H17)⇒2.4百万人(H22)[△4%]

(3) **通勤・通学の交通流動** 首都圏では千葉県、埼玉県、多摩地区などの地域から6割以上が東京都区部へ、中京圏では愛知県及び岐阜県から5割以上が名古屋市へ、近畿圏では大阪府から大阪市へ5割以上が向っている。

(例)【首都圏】千葉県 62.8%(H17)⇒65.2%(H22)【中京圏】愛知県(名古屋市を除く) 64.6%(H17)⇒58.7%(H22) 【近畿圏】大阪府(大阪市を除く) 55.0%(H17)⇒53.1%(H22)

(4) **自宅から駅までの利用交通手段** 3圏域ともに徒歩あるいは自転車の利用が多いが、中京圏では他の圏域に対して特に自転車の利用が多いほか自動車利用も多い。

2. バス・路面電車輸送の変化

(1) **バス等の定期券販売枚数** 首都圏及び中京圏では増加しているが、近畿圏では減少。

【首都圏】373千枚(H17)⇒382千枚(H22)[+2%] 【中京圏】75千枚(H17)⇒88千枚(H22)[+17%] 【近畿圏】272千枚(H17)⇒262千枚(H22)[△4%]

(2) **バス等の利用券種** 平成18年頃から順次導入されたICカードの利用が増加。特に通勤目的において顕著。

【首都圏】0%(H17)⇒59.7%(H22) 【中京圏】0%(H17)⇒6.2%(H22) 【近畿圏】0%(H17)⇒22.6%(H22)

3. 乗換え移動状況

(1) **鉄道駅での乗換え移動状況** 乗換時間は近畿圏が最も長い。また、乗換時間をピーク時とオフピーク時とで比較すると、3圏域ともにピーク時が1分程度長くなっている。

【首都圏】ピーク3.9分／オフピーク3.1分 【中京圏】ピーク4.3分／オフピーク3.3分 【近畿圏】ピーク4.5分／オフピーク3.8分

(2) **バスと鉄道の乗換え状況** 乗換時間は首都圏が最も長い。

【首都圏】バス→鉄道 3.1分／鉄道→バス 3.1分 【中京圏】バス→鉄道 2.5分／鉄道→バス 2.8分 【近畿圏】バス→鉄道 2.1分／鉄道→バス 2.2分